



**4 月 28 日(木) 嶋田奈穂子講師の講義「カミのモリは何を語るか？  
一神社の土地に刻まれた記憶を読み解く」を聞いて、生徒の皆さん  
はどんな研究をしたいと思ったのでしょうか？**

**みなさんの回答に嶋田先生と環境教育担当の岸本がお答えします。**



### Aさん

「全国的天満宮」

- 菅原道真を祀った天満宮は日本各地にあるが、それぞれについて、なぜできたか、境内の様子(建物、鳥居、参道など)、地域とのかかわり、天満宮同士のつながり、などを調べ、共通点、相違点を見つける。
- 「神社の信仰対象による違い」
- 人を祀っている神社と人以外(山、石、動物)などを祀っている神社の違いを調べる。祭りなど。

【嶋田先生】

「全国的天満宮」について

なぜ、日本各地に天満宮があるのか、はとても面白いテーマですね。例えば稲荷神社や八幡神社なども、全国各地で祀られている神社ですね。私はこのような神社を、“チェーン”神社と呼んでいます。その形成過程を調べてみるといろいろな地域の歴史や特性が見えてきます。

天満宮同士のつながり、というのは、私はまだ調べたことがないので、とても興味があります。

「神社の信仰対象による違い」について

神様の性質の違いは、私も非常に興味があります。人と人以外、という違いもありますが、人の中でも、①実際に存在した人が神様になる場合、②自然物を人に“見立て”て神様にする場合の2通りがあります。

特に、自然物や自然地形を人に見立てて、神様にする場合の、神名などはとてもユニークなものが多いので、きちんと調べてみると面白い発見があると思います。

【岸本】

Aさんが天満宮という具体的な研究対象を挙げたのはいいですね。それでは、共通点と相違点をどうやって調べますか？歴史資料を読む？自分で神社を回って観察する？神社の近所に住む人にインタビューしてみる？さらに考えてみましょう。共通点や相違点がわかったら、そこからどんな分析をしたいと思いますか？

### Bさん

「神社の中の神社」

- 一つの神社の中に神社があるのをよく見かけるので、なぜそのような状態が生まれたのかを調べたいです。
- それから、お寺の中の神社や神社の中のお寺なども気になります。「神社の歴史」
- 京都では、神社の隣や近所にお寺や違う神社のあることがあります。どうしてそれがそのまま残ることができているのかを調べたいです。

【嶋田先生】

「神社の中の神社」について

普段は見落としてしまいがちな、神社の中の神社。そのほとんどはとても小さなものですが、その一つひとつには独自の歴史や物語があります。その神社がどのような過程を経て、今の場所に置かれることになったのかを調べることで、以前の神社の立地場所がわかったりもします。いろいろな方向に発展する可能性のある研究テーマだと思います。

「神社の歴史」について

神社とお寺の関係は、とても長く、そして複雑なものです。その関係が、互いの立地にも現れているのかも知れません。

【岸本】

Bさん、「神社の隣や近所にお寺や違う神社のある」のを実際に見たのですか？それとも、誰かから聞いたことがあるのでしょうか？どこか気になる神社周辺の環境を文献資料や聞き取り調査で調べてみると、地域を深く知ることにつながりそうですね。

### Cさん

「日本人」

- 現在、日本人は多宗教を都合の良いときに信じるといふ、ある意味では信仰心が深く、または無宗教とも言える存在である。しかし、過去の歴史を紐解くと、日本人もそれぞれ唯一の神を信じ、大切にしてきたこともあった。では、何故日本人は自らの信仰の性質を変化させてしまったのだろうか。

「神々の伝説を科学する」

- 神の存在を否定し、地球の誕生伝説から地域に伝承されてきた逸話を科学によって証明できるかを考える。そして、人々がどのようにしてその中に神という存在を見出し、生み出してきたのかをその時代の文化、時代背景を見つつ、考えていく。また、科学が発展する中で、矛盾する神の伝承とどのように折り合いをつけていったのかも調べる。

【嶋田先生】

「日本人」について

“何故日本人は自らの信仰の性質を変化させてしまったのだろうか”は、とても面白いテーマですね。ただ、多宗教や無宗教、というときの“宗教”と“信仰”の違いはきっちり定義しておいたほうが良いと思います。

そもそも、神社の神様を拝むことは、宗教でしょうか？信仰でしょうか？

「神々の伝説を科学する」について

地域に伝承されてきた逸話を科学する、これ、ものすごく面白そうですね。具体的に、どんな逸話を扱いますか？“逸話”というのはどのようなものを想定しているのでしょうか？例えば、鴨川を遡って水源にたどり着いたお姫様が水の神様を祀ったのが貴船神社の始まり、というお話も、その対象でしょうか？

まず、神話、民話、伝説、伝承の違いをきちんと区別して、どれを扱うかを定義するところから始めてみると、考えやすいかもしれません。

【岸本】

Cさんの「神々の伝説を科学する」という研究タイトルはとてもインパクトがあって印象に残っています。ただ、ここで是非覚えておいてほしいのは、研究タイトルは研究内容のエッセンスが凝縮されたものだということ。ちょっと理想を言うと、タイトルを読んだだけで、この人は何を研究する(した)のかが明確に分かるものであればもったいいです。Cさんのアイデアをもう少し練って、具体的にどんな方法で、伝説を科学して何を明らかにしようとしているのかが示されているとなおさらいいですね。

## Dさん

### 「神社の規則性」

・神社ごとに祀られている神様の種類は違うため、どんな種類の神様が最も多く祀られているのか。またどのような場所に何の神様が祀られているのかという規則性について研究する。方法として、地図上のどこに神があるのか、祀られている神様の種類は何かを記し、そのあとで1つひとつの地域の歴史や地形について考察してゆくことが有効だと考えられる。

### 「神社のつくりの違い」

・神社の種類にはたくさんあると思うが、神様の種類によって神社のつくりにはどのような違いがあるのかを研究する。そのために、まず神社が祀られている神様ごとにグループ分けし、そのあとそれぞれのグループに属する神社のつくりにはどのような特徴や共通点があるのかをリストアップして他のグループと比較すると良いと思う。

## 【嶋田先生】

### 「神社の規則性」について

神社の神様の多様性に目をつけた、興味深いテーマだと思います。

また、「神様」とそれが祀られる「場所」の関係は、非常に面白いですね。

方法もきちんと考えているようなので、ぜひ実行してみてくださいね。研究です。

### 「神社のつくりの違い」について

神社のつくりは、細かく見ていくとかなり面白いものです。

建築様式、装飾、建築物の配置、境内の造りなど、それぞれに意味があって、驚く発見もあると思います。それらが「神様」の種類や性格と関係があったとしたら、とても興味深いですね。「神様」とは、地域の守り神として人が設定した、目には見えない存在です。その目にみえない存在が、実際の神社の構造や装飾に影響を与えているとしたら、非常に興味深いテーマだと思います。

## 【岸本】

Dさんのアイデアでは研究手順や方法が明確に示されていますね。前回の宿題でもそうでした。その姿勢を大切にしてくださいね。

さて、そもそも神様って一体どれくらいの種類、タイプがあるのか、それを調べるだけでも結構な努力が必要になりそうですが、地域別に比較したり、歴史的な変化を調べてみたり、外国と比較してみるとかするととても面白い研究になるだろうと思いました。

## Eさん

### 「祭りの起源」

・日本各地の様々な祭りに参加し、何を祀っているのか、いつからその祭りは始まったのか、また、祭りの変遷や祭りをするようになったきっかけなどを調査する。そこで、祭りとは何か、祭りの本質は何かなどを掘り下げる。その他にも日本で最初の祭りや世界にも目を向け、祭りを深く調べる。

### 「おみくじ」

・誰もが一度はしたことがあるおみくじを研究対象として、おみくじの種類やその起源、また神社ごとのおみくじの特色や書いてある内容、その他にも見た後のおみくじをどうすれば運勢が良くなるの



かなどを調べる。おみくじの引き直しなどが運勢などにどう影響すると考えられているのか、などを調べたい。

## 【嶋田先生】

### 「祭りの起源」について

祭りとは、神様と人間のコミュニケーションの手段だと、私は考えています。だから、神社ごとに祭りは多様で、かつそれぞれに独自の意味があるのだと理解しています。しかし、たとえ身近な神社の祭でも、その起源や意味をきちんと理解している人は少ないのが現実です。それをきちんと検証し、Eくん自身の祭の意味を見出せたなら、とても素晴らしい研究になると思います。

### 「おみくじ」について

神社に関する研究対象として、「おみくじ」を見たことはありませんでした。面白いですね。今、神社ごとに独特なおみくじが置いてありますが、業者などがいるのでしょうか？

## 【岸本】

Eさんは「祭りの本質」に迫ろうとしている。しかも、自分も全国の祭りに参加するという研究方法を採用していますね。実際に祭りに参加して、体験することは非常に重要だと思います。それ以外にも、定期的に地域に足を運んで準備を手伝ったり、祭りの運営に関わっている人にお話を聞いてみたり、地域の歴史資料館などからどのような祭りがなぜ始まったのか、その起源を探ってみる…なんていう方法もありますね。

## Fさん

### 「なぜ本殿を立てたものとそうでないものがあるのか」

・日本の神社の中には、御社がなく、山だけが神社になっているものもあるということを知ったので、その本殿を建てた意味、建てなかった意味というのを実際に現地に行ったり、歴史書などから時代背景、神社のカミサマの意味を探ることで本殿があることの意味を研究していく。

### 「日本人はなぜカミを祀っているのか」

・キリスト教やユダヤ教は一神教であるが、日本の神道には様々な神があり、その地域の人々が独自に神をつくっている。

ではなぜ、日本人たちは自分たちで独自に神を祀りはじめたのか。なぜ、自分たちの都合の良いように神を祀ることができると考え始めたのか。そのような思想をはじめた経緯を探るため、歴史書や実際の神社をみることで研究する。

## 【嶋田先生】

### 「なぜ本殿を建てたものとそうでないものがあるのか」について

特に、「本殿を建てなかった意味」という問いは、非常に興味深いです。あるのが当然というものに対して、それが「ない意味」を問うことは、それだけで興味を引きます。

### 「日本人はなぜカミを祀っているのか」について

一神教の世界と、この多様なカミがいる世界との比較に視点は面白いです。キリスト教の元になったユダヤ教が生まれた地域のことと、その地域の人びとの生活、考え方。そして様々なカミを生み出して祀った日本という地域のこととそこの人びと(日本人)の生活や考え方。この両者を比較してみると面白いかもしれません。宗教を作り出したり、信仰を生むのは、人です。

## 【岸本】

Fさん、日本以外にも多神教の国や地域がありますので、外国の事例と比較してみて、日本人の神祀りの大きな特徴を炙り出せると素晴らしいですね。



例えば、私が日本語の先生をしたり、留学していたモンゴルもアニミズム的な考えで、山、火、水の神がいると信じられていますし、地域を守る神もいると言われています。地域の人たちが小高い丘に石を集めて三角錐のような形の小山を作って(この小山をモンゴルでは「オポー」と呼びます)、ここでお祈りをします。お祈りをするときにはですね、石の回りを三周して、肉や乳製品、あるいは追加の石を投げて積み上げていきます。

## Gさん

### 「狛犬の種類」

・狛犬は神社や寺院の入り口の両脇などに向かい合うかたちで置かれることが多く、起源はインドやペルシャにあると言われているが、一言で狛犬といっても、一種類だけではない。一般的な狛犬から、口の中に玉を加えている狛犬、沖縄のシーサーも狛犬の一種とする説がある。各地の狛犬の種類からその意味を読み取り、人々の生活を調べる。

### 「初詣 地域での違い」

・初詣とは、新年の始まりに、神社や寺院に参詣し、これからの一年間を良い年であるようにと祈る行事であるが、地域によってその参り方は違う。神社に参るか、寺に参るかなど、その違いはどこから来たのか、なぜそのような違いが起こったのかを調べ、そこからその地域の人々がどのような生活をしてきたのかを探る。

## 【嶋田先生】

### 「狛犬の種類」について

当たり前のように神社にいる狛犬ですが、よく見ると結構種類がありますね。子供を背中におんぶしている狛犬、子供が背中から落ちかけている狛犬を見たときは、笑ってしまいました。



狛犬の種類とその意味、それと人々の生活に関係性があつたら大発見ですね。

### 「初詣 地域での違い」について

初詣をはじめとして、神社への参拝の仕方は神社ごと、そして地域によって違いがあるようです。神社への参り方の違いがある、具体的な地域が思いつきますか？自宅からの距離など、調査可能な地域だったらいいですが、遠か

つたら大変ですね。

## 【岸本】

日本で生まれ育っていれば、初詣に行ったことがない！なんていう人はおそらくいないでしょうね。でも、Gさんのように、地域ごとの初詣の様子を調べることで、初詣の奥底に潜んでいる歴史を探ろうと思いつくひとは少ないと思いますよ。実際にいくつかの地域を絞り込んで、現地調査を積み重ねるといいですね。

## Hさん

### 「カミと地域のつながりについて」

・地域によって、どのようなカミが祀られているのか。そのカミの共通点や相違点を調べ、カミの地域性について研究する。

・地域の中の地形や現代に残っている習慣などと神社に残されている資料を比べる。

### 「神社の場所」

・神社のある場所とその周辺が昔どのような土地であり、どのような人が暮らしていたのかなどを調べることから、神社と土地の関係性について深める。

・なぜその場所に神社が建てられたのかを考察する。

## 【嶋田先生】

### 「カミと地域のつながりについて」について

カミの地域性は、かならずあると思います。そこにどんな背景や意味があるのか、これは深く調べていくと非常に面白いと思います。シコブチ神のような、地域限定カミ様もおられるので、私もそのうち調査してみたいテーマです。

### 「神社の場所」について

これはズバリ私の研究テーマと重なっていて、とても面白いのでおすすめです。研究の視点は同じでも、調査する地域が異なれば、全く異なる結果や発見が生まれます。

## 【岸本】

Hさんは「カミの地域性について研究する」、「考察する」と言いましたが、「どうやって」研究しますか？「どうやって」考察しますか？この宿題では文字制限がありました。もう少し具体的に、Hさんの考える方法案が示されていればもっと良いかな～と思いました。

## Iさん

### 「神社の種類」

・神社の名称の最後につく社号というものは何種類かある。例えば、「神宮」、「大社」等である。それらがある場所を社号ごとに地図にマークをつけ、名称と位置関係について調べる。また、各名称の神社をいくつか訪れ、違いを調べる。

### 「同名の神社について」

・全国には同じ名前前の神社がたくさんある。それらの共通点、相違点を調べ、なぜ各地に同じ名前前のものがあるのかを調査する。さらに、同名の神社の位置関係について調べる。

## 【嶋田先生】

### 「神社の種類」について

神社の社号は、その社号がつけられた時代におけるその神社の社会的な地位や役割を反映しています。それが神社の立地とどのような関係があるのか、つまり、神社の社会的地位や役割と立地の関係性を問うものですね。非常に興味深いテーマです。

### 「同名の神社について」について

阿部さんにも同じようなことを述べましたが、全国に同じ名前前の神社が点在

しているような神社を、私は“チェーン”神社と呼んでいます。その経緯や分布を調べることは面白いですよ。

【岸本】

「名称の神社をいくつか訪れ、違いを調べる」。そこで、Iさんに質問。どんな「違い」が、発見されると予想しますか？例えば仮説を立ててみましょう。研究計画がさらに具体化されて、何をどうやって調べたらいいか研究の方向性がはっきりしてくると思います。

**Jさん**

「神社と寺院の意外な共通点！」

・寺院に対抗するように創られた神社は対称的な存在に思われがちであるが、対抗しながらも実は寺院を真似しているところが意外とあるのではないだろうか。例えば…建築様式、本殿を建てる場所、向きなど。もし似ているのであれば、当時の人が寺院に憧れの気持ちを抱いていたのかもしれない。

「未来の神社のカタチ」

・日本が経済発展をして、人々の暮らしや街は日々移り変わっているが、神社はそこだけ時間が止まってしまったかのように、昔から姿かたちがほとんど変わっていない。  
・では、なぜ今まで姿が変わってこなかったのか？  
・これから、どのようなかたちで神社を残していくのか？  
・もし今のかたちを残せないのであれば、どのように工夫して残していくのか、自分なりのアイデアを出す。

【嶋田先生】

「神社と寺院の意外な共通点」について

神社と寺院の関係は、歴史も長く、複雑で、互いに反発しながらも憧れ合っていたりします。ロミオとジュリエットのような関係とでもいえるかもしれません。こういう視点で現在の京都洛北の神社と寺の場所や向きなどを見ることは大変面白い作業だと思います。その歴史や相互作用から、大きな発見があるかもしれません。

「未来の神社のカタチ」について

このタイトルとテーマは、とても魅力的ですね。

神社は本当に変わってこなかったのか？変わったとすれば、何が変わったのか。これからどんな形で神社を残していくのか。私もぜひ知りたいです。

【岸本】

Jさん言うように、研究をして「自分なりのアイデアを出す」こと、何か提案することは大切ですね。では、何をどうやって予め勉強しておくとしたらいいのでしょうか？

**Kさん**

「神社で祀られている神がなぜそこで祀られるようになったのか」

・神社というものは、人々が何かを願ってつくったものであるの、「なぜ」という理由を調べることで、その地域の人々の暮らしや特色を知ることができるのではないかと思った。人々の暮らしを知ること、その時代についても知れたり、色々なことにつながると思う。

「全国の神社ではどのような神様が祀られているか」

・はじめの研究アイデアでも人々の暮らしを知ること、その時代のことなど色々なことを知ることができると思うと書いたが、全国の神様の傾向を調べることで、日本全国ではどのように暮らしていたかなど、ひとつの地域だけでなく、周辺とのかかわりなども知ることができるのではないかと思う。

【嶋田先生】

「神社で祀られている神がなぜそこで祀られるようになったのか」について

そうですねー。人が何かを願って作ったものが神社です。だからその場所や、祀られている神様には、何らかの願いやメッセージが込められているかもしれない、と思って私も日々研究しています。

Kさんの言う通り、このテーマはいろいろなことにつながっていきます。自分の視点の置き場所によって、どんな研究ともつなげることが出来るので、そういう意味でも面白いテーマです。

「全国の神社ではどのような神様が祀られているか」について

日本列島神様地図、みたいなのがあらおもしろそうですねー。アマテラス、みたいに知名度抜群の神様もいれば、シコブチ、みたいな地域限定の神様もいます。京都市だけでも、どれくらいの神様がおられるんでしょうね。

【岸本】

Kさんの言うように、神社と神を調べていくと、当然、色々なことが分かると思います。でも、「色々なこと」が発見されてからが大切です。

はじめから仮説を立ててみて、検証する！という研究方法もありますが、とりあえず興味のあることを調べてみて、そこから分かったことを整理して、次に具体的に何をどう調べるか計画を立てて、研究ターゲットと方法を絞りこんでいくのもいいですね。

**Lさん**

「長岡天満宮に刻まれた記憶を読み解く」

・昨年、長岡京市へ引っ越しした。たったの10年間のみ都が置かれていたということを知り、どのような意図や思いで長岡天満宮が作られたのかが気になった。

・そして、長岡天満宮の中心あたりに人が触れられないように囲いがしてある大きな木があった。人に聞いたり、歴史の流れを調べて、長岡に都を置いた目的とともに調べたい。

「伊勢神宮の歴史との関連を調べる」

・日本史の授業で、伊勢神宮には母なる神様である天照大神が祀られていて、その逸話を聞いた。小学6年生の頃に一度訪れたきり、行ったことがないので、実際にその土地を訪れ、考察したり、その土地の人に話を聞きたい。

【嶋田先生】

「長岡天満宮に刻まれた記憶を読み解く」について

身近な神社に興味をもったんですね。どんな経緯で神社が創建されたのか、まずそこを調べることから、いろいろな問いが生まれてくると思います。

また、巨木など、自然物に対する信仰の場でもあるんですね。その木の歴史を調べてみるのも面白いかもしれません。

「伊勢神宮の歴史との関連を調べる」について

たしかに、伊勢神宮は未だに謎の多い聖地です。さまざまな研究者がそこに魅力を感じて、研究対象にしています。伊勢神宮について、Lさん独自の疑問や問いが生まれれば、研究対象として良い神社だと思います。

【岸本】

Lさんは自分の身近にある環境で感じた疑問から研究アイデアを挙げてくれました。普段何気なく生活していて「あれ？」と不思議に思ったことを、そのまましておくのではなくて、何を、なぜ不思議に思ったのかメモしておいて、研究アイデアを膨らませたり、研究計画に導くことはとても大切です。

**Mさん**

「神社のネットワーク」

・日本には寺と同じように様々な神社、たくさんの神社があるが、それぞれの神社同士でつながりはあるのだろうか。祀られている神の血



縁や友人関係、恋愛関係、そしてその神社の立地の関係など、神社同士のネットワークを紐解く。

#### 「神社の経済利用」

・仏教に関するものが寺であるのに対し、神社には宗教がないため、大小、立地、祀っている神は多種多様なものがある。その土地で発生した災害、病気、けが、金、恋など人々の目的に合わせているかのようには様々なカミがいる。その神社でそれぞれ特有の商売やおみくじ、占いなど人々の欲に沿ったやり方を考えれば、神社の経済的利用ができる。

【嶋田先生】

「神社のネットワーク」について

神様同士の家族関係はいくつかありますが、恋愛関係はあまり聞いたことがありません。もし、何かご存知でしたら教えてください。また、それらの関係が実社会とどのような関連があるのか、もしあったら、それはとても面白そうですね。

「神社の経済利用」について

面白い視点ですね。実際に、京都市内の神社でも、神様の特徴を強調したり、独自のおみくじを設置しているところがあります。

まずは、なぜ、今、神社がこのように神社の特性を強調したり、商業的な活動に力を入れるのかを考えてみてください。

【岸本】

神社同士のネットワークを「どうやって」紐解こうと考えていますか？また、Mさんの「神社の経済的利用」という発想は、嶋田先生もおっしゃったようにとても面白いと思いました。いつ、なぜ経済利用が始まったのか、歴史的な側面も研究できるといいですね。

### Nさん

#### 「祭りの起源」

・日本各地には様々な祭りが存在する。その歴史は古く、祭りを読み解くことで日本の歴史の動きが見えてくるような気がする。また、各地域の祭りの起源を探ることで、その地域の特性や人々の暮らしといったものが見えてくるだろう。

#### 「日本人の信仰心の薄れ」

・今でも初詣に行ったり、おみくじを引いたりする日本人は数多くいると思う。しかし、そういった行為が信仰心としてイコールで結ばれるかには疑問が残る。どの神様を信仰しているかと聞かれて答えられる人は少ないはずだ。古来は、いや少し前までは日本人の信仰心も強かったであろうに、どのタイミングでそれが薄れてしまったのか。そこを追及したいと思う。

【嶋田先生】

「祭りの起源」について

祭は神社ごとに多様なので、一つ一つの意味や特徴を読み解いていくことはとても面白いことだと思います。

また、自分が祭りを「見る」と「参加すること」のどちらに立つか、によっても、見えてくる祭りの意味は変わってくると思います。チャンスがあれば、両方の立場から祭りを考えることができたらいいですね。

「日本人の信仰心の薄れ」について

今日の日本人の信仰心が薄れている、という仮説のものと研究テーマですね。仮説がもとにある研究は、面白い発見があると思いますし、テーマも面白そうですね。そもそも、「信仰心」とは何か、というような根源的な問いについても関わってくる内容なので、是非研究してみてください。

【岸本】

「日本人の信仰心」と一言に言っても、年齢や性別、あるいは職業や過去の経験によって信仰心の強い、弱いの違いがあるような気がしました。それから、信仰心の強弱はどんな方法で調べようと思いましたか？Nさん自身の場合をふりかえってみるとどうでしょうか？

### Oさん

#### 「神社の木材」

・神社の鳥居や本殿に使われている木材は、日本のものなのか。はたまた外国の木なのか。国内であれば、それはその地域のものなのか。なぜその地域の木が使用されてきたのかを調査してみたいと思った。

#### 「祭—MATSURI—」

・それぞれの地域で行われている様々な「祭」。それはどのような人々が、何を願って、何のために行っているのか。一言では表現できない「祭」について調査し、海外の祭と比較したり、系統分類をしたりして、詳しく知りたいと思った。

【嶋田先生】

「神社の木材」について

このテーマ、すごく興味があります。

実は、神社の境内には針葉樹を植えることが奨励されていて、それは神社の建築物の建材の確保のためです。そうでもしなければ、建材が確保できない、ということでもあります。でも、実際に神社の建材がどのものが使われているのか調べたことはありません。

「祭 —MATSURI—」について

そうですね。祭は多様で、構成も複雑なものが多いです。

比較や系統分類は、難しいけど祭を理解していくための方法としてやってみるのは良いかもしれません。

【岸本】

祭りが何のためにあって、どう実践されているのかを知る。Oさんは祭りの本質に迫ろうとする、壮大な研究アイデアを提示してくれたと思います。その姿勢、意気込みは大切です！



**嶋田先生、ありがとうございました！**

**次号は6月2日ごろ発行予定です。**

**お楽しみに！**

